好評連載

温泉エッセイスト 山崎まゆみさんと訪ねる

『親孝行温泉』

ひざ痛を抱えたお年寄りの方でも安心して楽しめる名湯紀行

山崎まゆみ（やまざきまゆみ）

1970年新潟県長岡市生まれ。駒沢大学文学部卒。新聞、雑誌、テレビ、ラジオなどで温泉の魅力を紹介する温泉エッセイスト。国土交通省から「VISIT JAPAN大使」に任命される。著書に『だから混浴はやめられない』（新潮新書）『恋に効くパワースポット温泉』（文藝春秋）など。

第二七回 霧島温泉郷「旅行人山荘」（鹿児島県）

霧島温泉郷の山荘高台にある旅行人山荘

旅行人山荘の蔵前さんとバリアフリー相談センターの皆さん

「かごしまバリアフリー相談センター」推薦の宿

鹿児島は温泉天国です。車を走らせば、至る所に温泉マークを見つけられます。

指宿温泉の砂湯も一度は体験して欲しいと思いますし、鹿児島は離島の旅も楽しいですね。

でも、私はさまざまな泉質、絶景を楽しめる霧島温泉郷が大好きです。

そして、鹿児島での旅をサポートしているのが、昨年立ちあ

好評連載

温泉エッセイスト
山崎まゆみさんと訪ねる『親孝行温泉』

赤松の湯は単純硫黄温泉。神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、うちみ、くじき、冷え性などに効果的

がったばかりのかごしまバリアフリー相談センターです。

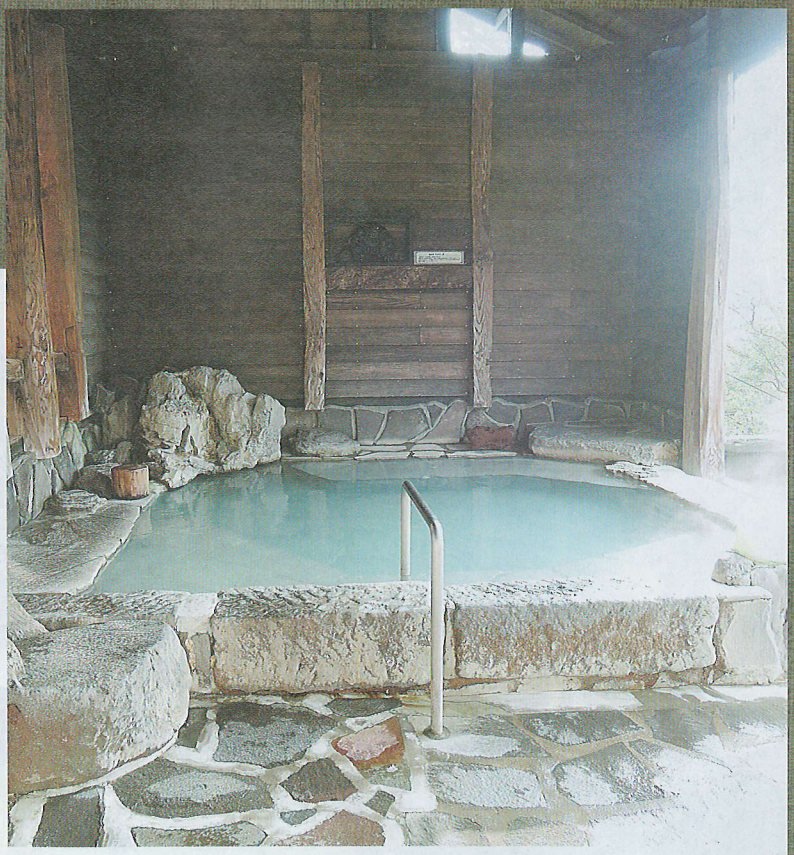
「最近のお問い合わせでは、〝家族湯はないですか？〟が多いですね。体のご不自由な方を温泉に入れてあげたいというご家族からの問い合わせがとても増えています」（理事長・紙屋久美子さん）。

先日、鹿児島県でユニバーサルツーリズム講演会が開催されました。そこに登壇したパネリストの中に旅行人山荘の蔵前壮一社長の姿がありました。

紙屋さんが初めて旅行人山荘を訪ねたのは、ほんの二年前だといいます。既にお風呂場にはシャワーチェアーがあったそうですが、その後、紙屋さんは何度か旅行人山荘を訪ね、「こうしたら私たちは使いやすいです」とリクエストをしたそうです。

それは、「シャワーキャリーがあればいいですね」、「二階の食事処をスロープにしてもらえたら

ートしているのが、昨年立ちあ



右／貸切露天温泉「鹿の湯」
上／鹿の湯に常備されているシャワーチェアー

●霧島温泉　旅行人山荘
鹿児島県霧島市牧園町高千穂3865
☎0995-78-2831
http://ryokojin.com/
●かごしまバリアフリー相談センター
鹿児島県霧島市隼人町見次254番地6
0995-73-3669
http://kagoshima-barrierfree.com/

嬉しい」、「玄関のスロープも考えて頂きたい」などなど。その思いに応えてくださったのが、蔵前壮一社長だったといいます。

バリアフリールームでなく、ファミリールーム

紙屋さんとのそうしたやり取りもあり、約二年を経て、旅行人山荘は鹿児島でとても使い勝手のいい宿となりました。

「バリアフリーというとハードの改修費の負担を考え、なかなか踏み出せない宿の方が多いのですが、あるものを利用して、そのうえでソフト面でできることを考えて頂ければ、それが私たちの本望です」。

完璧なハードではなく、必要なのは、「ハードとソフトの間くらい」、必要なのは「ちょっとした改善と改修」。「蔵前社長は、まさにそういったことを心得た方でした」と紙屋さんは語ります。しかも、ちょっとした工事は、社長自ら行うときもあったそうです。

そんな旅行人山荘の蔵前社長のことは、私も以前よりよく存じていました。霧島温泉で初の露天風呂を作ったのも蔵前社長なら、いくつもの人気貸し切り露天風呂を手作りしたのも蔵前社長。大浴場を希望される体の不自由な方のために、苦労されてエレベーターを付けたという話も聞いていました。

今回、改めてバリアフリー宿について話を聞いてみると「バリアフリーという言葉にこだわりません」ということ。

「足腰弱った方も温泉に入ってほしい。そのご家族で旅行していただきたい。そんな気持ちからですので、うちではファミリールームと呼んでいます」。

蔵前社長のそうした「バリアフリー」という言葉にとらわれない柔軟な発想は、日本有数の人気宿を作ってきた方のお考え

好評連載

温泉エッセイスト山崎まゆみさんと訪ねる『親孝行温泉』

体が温まる旅行人山荘の名物、大隅鍋

広々としたファミリールーム

ファミリールームのトイレには手すりがあって安心

旅行人山荘からの眺望

なのだと納得するばかりです。

全国から人が訪れる羨望の景色

実際、旅行人山荘は何からなにまで素晴らしい。温泉専門家である私も、たびたびテレビ撮影や新聞・雑誌取材などでお世話になってきました。

特にこの宿は霧島温泉郷の中でも高台にあり、眺めは絶景！大浴場「大隅の湯」の露天風呂から霧島市内の街並み、錦江湾、桜島が眺められます。

こんな風景に出会ったことがあります。その日は土砂降りでしたが、夕暮れどきには雨が止み、なんと空一面に霧がかかったのです。霧の合間からは光が差し、しかもその直後には霧が一気にひいて、遠くに桜島が現れたのです。神話「天孫降臨」を思わせるような、本当に神々しい風景でした。

そしてその景観は、大隅の湯だけでなく、客室や食事処など、いたるところから眺めることができるのです。

かごしまバリアフリー相談センターでは、鹿児島での観光ルートを案内するとともに、現在、入浴介助制度も検討中です。

そうしたセンターの皆さんと宿の皆さんと一体となり、鹿児島の温泉に入り、心も体も温まる人が増えますようにと祈る気持ちです。